

7 子供の解答状況に学ぶ指導法の改善

人吉市立東間小学校の実践

令和4年度全国学力・学習状況調査結果を受け、管理職及び研究主任等を中心に各教科における誤答分析を行い、誤答が多かった問題や無答の状況等から、課題の見られる問題を洗い出した。その原因と対策を全職員で共有し、授業改善に取り組んでいる。

R4全国学力・学習状況調査(算数) 課題の見られる問題

2 (4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入るとき、飲み物の量の求め方と答えを書く問題

全国	48.0
県	46.7
本校	47.9 (-0.1)

<正答の条件>
次の①、②をすべて書き、答えを600と書いている。
① 180mLが30mLの5倍であることを求める式や言葉
② 果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁mLのときの飲み物の量を求める式や言葉

類型	全国	本県	本校	答え
1 正答	48.0	46.7	47.9	①、②をすべて書き600と解答している
2	0.4	0.5	0.0	①、②をすべて書き600以外を解答している
3	6.9	7.8	6.3	①のみを書いており、600と解答している
4	1.9	5.4	5.4	①のみを書いており、600以外を解答している
5	11.7	11.5	18.8	②のみを書いており、600と解答している
途中、省略				
無答	5.5	5.4	8.3	無答

なぜ、本校の子供たちは 類型5 を解答することになったのだろう？

本校の子供たちには、正しく表現(説明)する方法について、指導が不足していたことが考えられる。

同様に、説明する問題に課題が示されている。

3 (4) 1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く問題

全国	66.7
県	66.9
本校	67.7 (-1.0)



ゆうかさんは、飲み物の量が600mLになる理由を「だって、……」のあとに説明しようとしています。ゆうかさんは、次のように2つの文を使って説明しました。下の理由1、理由2に入る文を考えて、書きましょう。

【ゆうかさんの説明】

○ まず、 理由1

○ 次に、 理由2

○ だから、飲み物の量は600mLになります。

コラム 文字数を制限すると、表現力も洗練される！

表現力が身につかないと偏みつつ、子供に自由にやらせたらと書かせる。その意味と教員がくみ取り、正答にしていることはありませんか？いつまで経っても、表現力は身につかないでしょう。何を書けばいいのかをしっかりと考えさせ、端的に表現する方法を指導していくことが大切です。だって、教員でも、レポートを書く際に何度もチェックを受けて、やっと完成できるようになるのですから！



キーワードは、「制限する」こと

「制限する」というキーワードは、授業づくりの中でさまざまな場面で活用できます。算数科だけでなく、国語、社会、理科、総合、生活・・・など、すべての教科で意識的に指導していくことが大切です。表現力にほってお話しすれば……。

文字数を制限する

学年の指導の状況に応じて、表現させる文字数を「制限」してみましょう。例えば、20文字以内、50文字以内、70文字以内、100文字以内など文字数を制限すると表現が洗練されてきます。原稿用紙を活用することも1つの方法です。

文の数を制限する

上の例のように「2つの文で書きましょう。」など、文の数を制限することも考えられます。

指導方法のヒントは全国学力・学習状況調査問題にたくさんありますよ！

令和4年度全国学力・学習状況調査結果から、各教科における誤答分析を基礎資料として、学校独自に「小問分析」を行いました。

なぜ、児童はその問題を誤答したのか、その原因と分析を踏まえ、独自の授業アイディア例を作成するとともに、各教科の改善プランを立て、授業での実践につなげるようにしました。

写真は、「小問分析」の冊子の一部です。

各項目の終末には、校長のコラムもあり、授業改善のヒントが掲載されています。